宮城県商工会地区中小企業景況調査報告書

2026年4月～6月期

目　　次

1．県下産業全体の景況…… 2

(1)　主要景況項目のあらまし…… 2
(2)　全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし…… 3
(3)　今後の見通しについて…… 4

2．県下産業別の景況…… 5

(1)　製造業の動向…… 5
(2)　建設業の動向…… 8
(3)　小売業の動向…… 11
(4)　サービス業の動向…… 14

2026年9月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

2026 年 4 月～6 月

［調 査 要 領］

１．調 査 対 象

（１） 対 象 地 区　　宮城県内 10 商工会地区

（調査対象商工会名） 名 取 市 商 工 会 、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、利府松島商工会、くろかわ商工会、加 美 商 工 会、大 崎 商 工 会、くりはら北商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会

（２） 対象企業数　　１５０ 企業

（３） 回答企業数　　１５０ 企業

２．調査対象期間

2026 年 4 月～6 月期を対象として、調査時点は 2026 年 6 月 1 日とした。

３．調 査 方 法

（１） 商工会の経営指導員による訪問面接調査。

（２） 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

４．回答企業内訳

業　　種	企 業 数
製　造　業	３０
建　設　業	２５
小　売　業	４２
サービス業	５３
合　　計	１５０

５．そ　の　他

本報告書中のＤＩとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（上昇・好転）企業割合と減少（低下・悪化）企業割合の差を示すものである。

１．県下産業全体の景況

（１）主要景況項目のあらまし

① 業況ＤＩの状況と来期見通し

県下商工会地区における今期（2026 年 4 月～6 月期）の調査において、産業全体（全産業）の業況ＤＩ（前年同期との比較ＤＩ、以下同じ）は、前期と比べ△31.8（前期△24.5)で△7.3ポイントの悪化となった。産業別では、製造業が△32.2（前期△32.1）で△0.1ポイントの悪化、建設業は△36.0（前期△16.0）で△20.0ポイントの悪化、小売業は△47.6（前期△38.1）で△9.5ポイントの悪化、サービス業では△17.0（前期△13.5）と△3.5ポイントの悪化となった。

来期見通しでは、製造業、サービス業で悪化する一方、建設業、小売業では改善の見通しとなっている。

表－1　　業況ＤＩの状況と来期見通し　　（前年同期比・ＤＩ）

業　種	前 期	今 期	来期見通し
全　産　業	△ 24.5	△ 31.8	△ 31.5
製　造　業	△ 32.1	△ 32.2	△ 35.7
建　設　業	△ 16.0	△ 36.0	△ 25.0
小　売　業	△ 38.1	△ 47.6	△ 43.9
サービス業	△ 13.5	△ 17.0	△ 22.6

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業で 23.3%となり前期比 6.6 ポイント増加、建設業が8.0%で前期比△12.0ポイントの減少、小売業が2.4%で前期比△11.9ポイントの減少、サービス業では18.9%で前期比1.9ポイントの増加となった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べて製造業で減少、小売業で増加、建設業、サービス業では横ばいの見通しとなっている。

表－２　　設備投資の状況と来期計画　　（企業割合・%）

業　種	前 期	今 期	来期計画
製　造　業	16.7	23.3	13.3
建　設　業	20.0	8.0	8.0
小　売　業	14.3	2.4	7.1
サービス業	17.0	18.9	18.9

（2）全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（ 完成工事額 ）

2026 年 6 月調査の日銀短観で、中小企業の業況判断指数（ＤＩ）は前期（2026 年 3 月調査）と比較し、「製造業がプラス２、非製造業ではマイナス１と予測。製造業は、中東情勢の不透明感に伴う原材料価格の高騰や一部原材料の供給制約、中東向け輸出の低迷などが重石となる一方で、内外の堅調な設備投資や AI 関連分野の旺盛な需要を背景に業況を下支え。非製造業では底堅い個人消費やインバウンド需要が一定の支えとなる半面、折からの人手不足に加え、中東情勢危機に伴う原油・石油製品価格の上昇が景況感を下押しする要因となる見通し」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）ＤＩは、前期との比較で製造業、建設業、小売業で悪化、サービス業で改善となった。

また、今期の宮城と全国・東北との売上額ＤＩ比較では、製造業、建設業、小売業で全国・東北以下、サービス業が全国・東北以上であった。

表－３　　売上額（ 完成工事額 ）の状況　　（前年同期比・ＤＩ）

区分 ＼ 業種	全国		東北		宮城	
	前期	今期	前期	今期	前期	今期
製造業	△ 6.2	△ 2.4	△ 12.0	△ 10.2	△ 10.0	△ 13.3
建設業	△ 10.0	△ 18.1	△ 24.2	△ 25.5	△ 12.0	△ 32.0
小売業	△ 23.3	△ 20.0	△ 33.7	△ 24.6	△ 16.7	△ 31.0
サービス業	△ 8.9	△ 4.0	△ 16.3	△ 7.2	△ 3.8	△ 1.9

② 採　算

宮城の今期の採算ＤＩは、前期との比較で全業種において悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との採算ＤＩ比較では、建設業、小売業で全国・東北以下、製造業、サービス業で全国以下・東北以上であった。

表－４　　採算の状況　　（前年同期比・ＤＩ）

区分 ＼ 業種	全国		東北		宮城	
	前期	今期	前期	今期	前期	今期
製造業	△ 18.3	△ 23.8	△ 30.9	△ 38.0	△ 30.0	△ 37.9
建設業	△ 20.0	△ 33.6	△ 32.5	△ 45.7	△ 24.0	△ 48.0
小売業	△ 30.6	△ 33.3	△ 44.0	△ 40.3	△ 53.6	△ 58.5
サービス業	△ 24.9	△ 26.0	△ 32.8	△ 30.6	△ 15.1	△ 26.9

（3）今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しＤＩ（2026 年 7 月～9 月期）では、今期状況ＤＩとの比較で、製造業が△3.3ポイント、建設業で△4.0ポイント、小売業で△14.3ポイント、サービス業で△7.5ポイントの悪化の見通しとなった。

採算来期見通しＤＩでは、今期状況ＤＩとの比較では、製造業が△3.5ポイント、小売業で△0.1ポイント、サービス業で△5.8ポイントの悪化、建設業で横ばいの見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国・宮城で悪化、採算でも全国・宮城で悪化の見通し。建設業では売上は全国・宮城で悪化、採算では全国で悪化、宮城で横ばいの見通し。小売業では売上が全国・宮城で悪化、採算でも全国・宮城で悪化の見通し。サービス業でも売上が全国・宮城で悪化、採算でも全国・宮城で悪化の見通しとなった。

表－５　売上額（ 完成工事額 ）の状況と見通し　　（前年同期比・ＤＩ）

区分／業種	全国		宮城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 2.4	△ 7.4	△ 13.3	△ 16.6
建設業	△ 18.1	△ 22.4	△ 32.0	△ 36.0
小売業	△ 20.0	△ 24.0	△ 31.0	△ 45.3
サービス業	△ 4.0	△ 6.9	△ 1.9	△ 9.4

表－６　採算の状況と見通し　　（前年同期比・ＤＩ）

区分／業種	全国		宮城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 23.8	△ 24.4	△ 37.9	△ 41.4
建設業	△ 33.6	△ 39.4	△ 48.0	△ 48.0
小売業	△ 33.3	△ 34.5	△ 58.5	△ 58.6
サービス業	△ 26.0	△ 26.9	△ 26.9	△ 32.7

２．県下産業別の景況

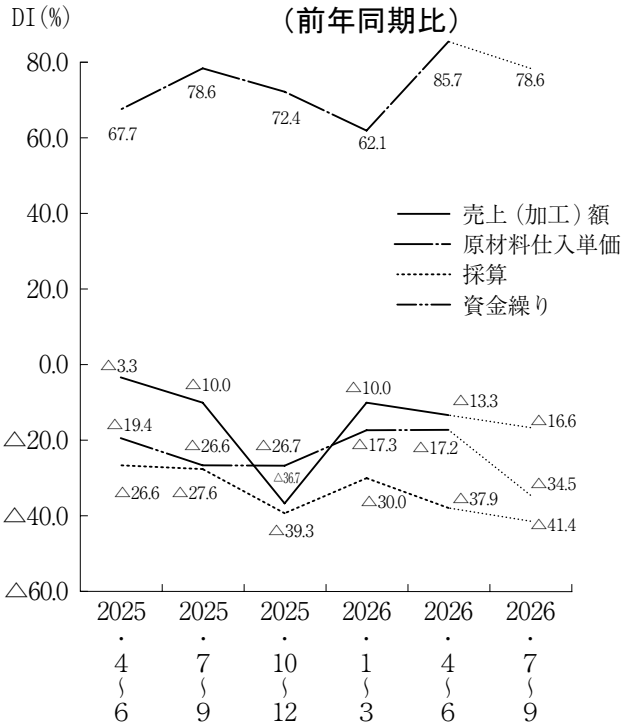
（１）製造業の動向

①　主要景況項目から見たあらまし

前年同期比ＤＩは、売上（加工）額ＤＩが今期△13.3（前期△10.0）となり前期比△3.3ポイント悪化、採算ＤＩでは今期△37.9（前期△30.0）で△7.9ポイント悪化、資金繰りＤＩでは今期△17.2（前期△17.3）で0.1ポイントの改善となった。

原材料仕入単価は今期 85.7（前期 62.1）と 23.6 ポイントの増加となった。

図１－１　主要景況項目の推移
（前年同期比）



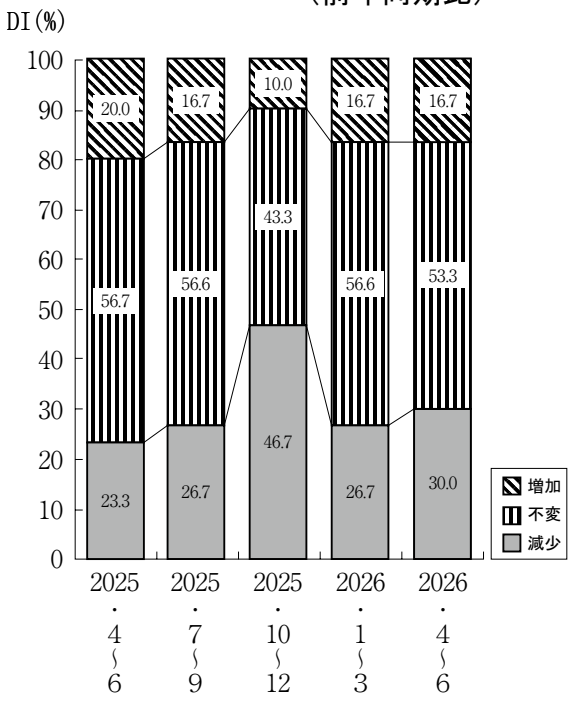
② 主要景況項目別状況

（ａ）売上（加工）額

「増加」と回答した企業は、全体の 16.7%（前期 16.7%）で横ばい、「減少」と回答した企業は 30.0%（前期 26.7%）で 3.3 ポイント増加した。

その結果、売上（加工）額ＤＩは△13.3（前期△10.0）となり、前期比△3.3ポイントの悪化となった。

図１－２　売上（加工）額の状況
（前年同期比）

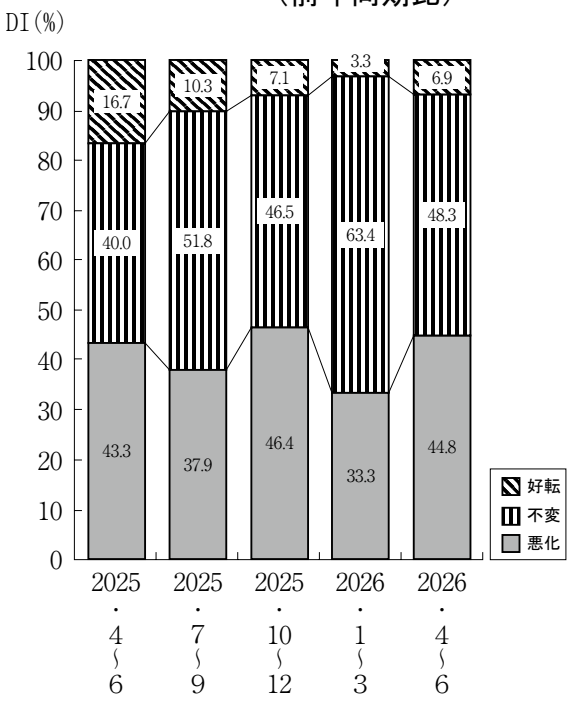


（b）採　　算

「好転」と回答した企業は全体の 6.9%（前期 3.3%）で 3.6 ポイント増加、「悪化」と回答した企業は 44.8%（前期 33.3%）で 11.5 ポイント増加した。

その結果、採算ＤＩは△37.9（前期△30.0）で△7.9ポイントの悪化となった。

図 1－3　採算の状況
（前年同期比）



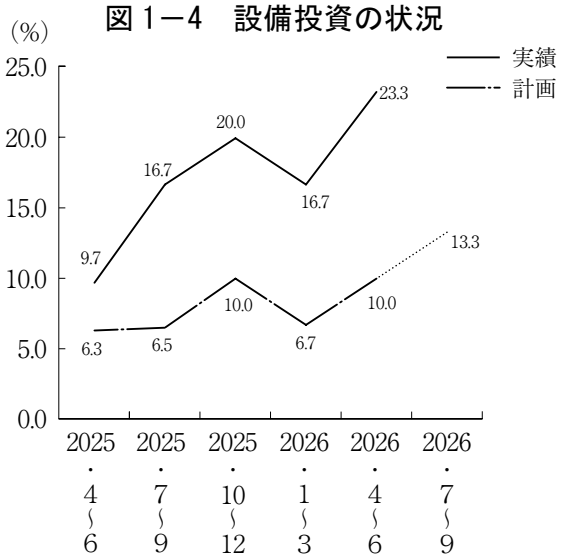
（c）設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の 23.3%（前期 16.7%）で前期と比べ 6.6 ポイント増加した。

その設備内容は、土地、工場建物、生産設備、車両・運搬具であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 13.3%で、その設備内容は、土地、工場建物、生産設備、ＯＡ機器となっている。

図 1－4　設備投資の状況

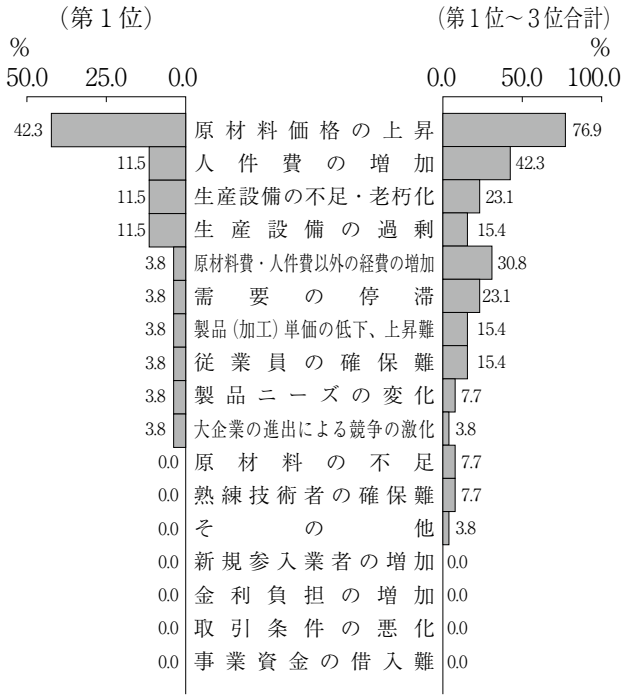


（d）経営上の問題点

重要度第 1 位の問題点は「原材料価格の上昇」で 42.3%、次いで「人件費の増加」「生産設備の不足・老朽化」「生産設備の過剰」が同率 11.5%で続いた。

重要度第 1 位から第 3 位合計では「原材料価格の上昇」が 76.9%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費の増加」が 42.3%、「原材料費・人件費以外の経費の増加」が 30.8%、「生産設備の不足・老朽化」「需要の停滞」が同率 23.1%、「生産設備の過剰」「製品（加工）単価の低下、上昇難」「従業員の確保難」が同率 15.4%、「製品ニーズの変化」「原材料の不足」「熟練技術者の確保難」が同率 7.7%で続いた。

図 1－5　経営上の問題点



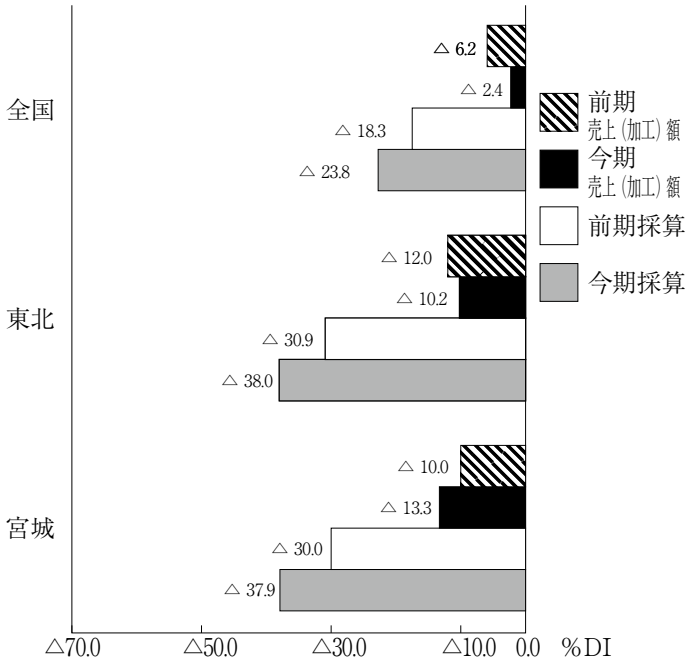
③　全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で、売上（加工）額ＤＩは全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

採算ＤＩでは全地域（全産業）で悪化となった。その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業者からは、「売上確保に努めるも資材費高騰等により利益がでにくい状況」（水産加工業）、「足元の受注量は増加傾向ではあるが、中東情勢で先行きは不透明」（電子部品製造業）、「中東情勢の長期化、悪化など物価高騰による引合い案件への影響、受注見通しに懸念」「急激な資材不足、諸経費上昇等で苦慮」（製畳業）などのコメントが寄せられた。

図 1－6　全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



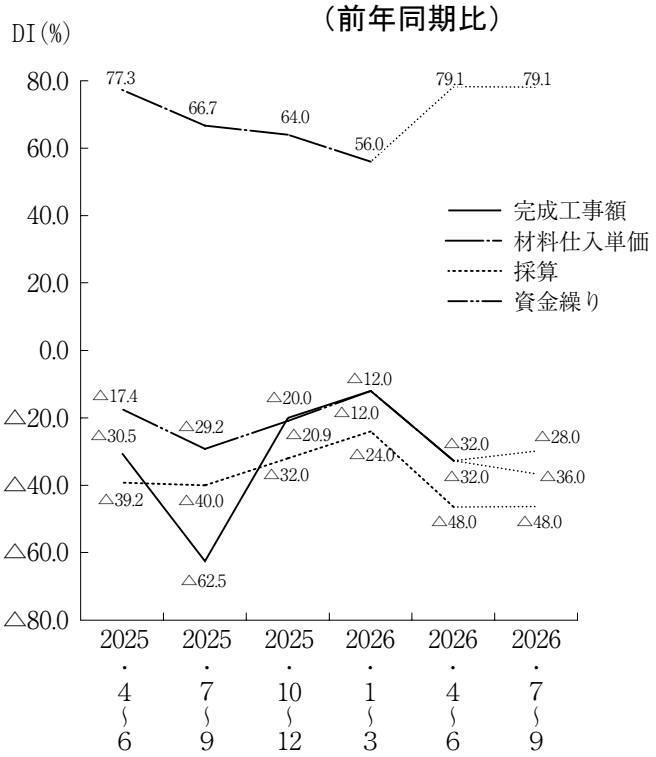
（２）建設業の動向

①　主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額ＤＩは今期△32.0（前期△12.0）となり前期比△20.0ポイント悪化、採算ＤＩでは今期△48.0（前期△24.0）で△24.0ポイント悪化、資金繰りＤＩでは今期△32.0（前期△12.0）で△20.0ポイントの悪化となった。

材料仕入単価ＤＩは今期 79.1（前期 56.0）と 23.1 ポイントの増加となった。

図 2－1　主要景況項目の推移
（前年同期比）



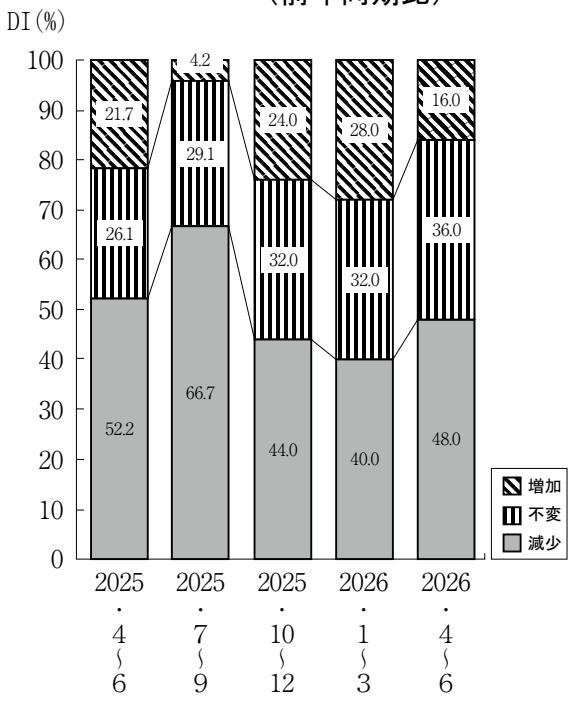
② 主要景況項目別状況

（ａ）完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の16.0%（前期28.0%）で△12.0ポイント減少、「減少」と回答した企業は 48.0%（前期 40.0%）で 8.0 ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額ＤＩは△32.0（前期△12.0）となり、前期比△20.0ポイントの悪化となった。

図 2－2　完成工事額の状況
（前年同期比）

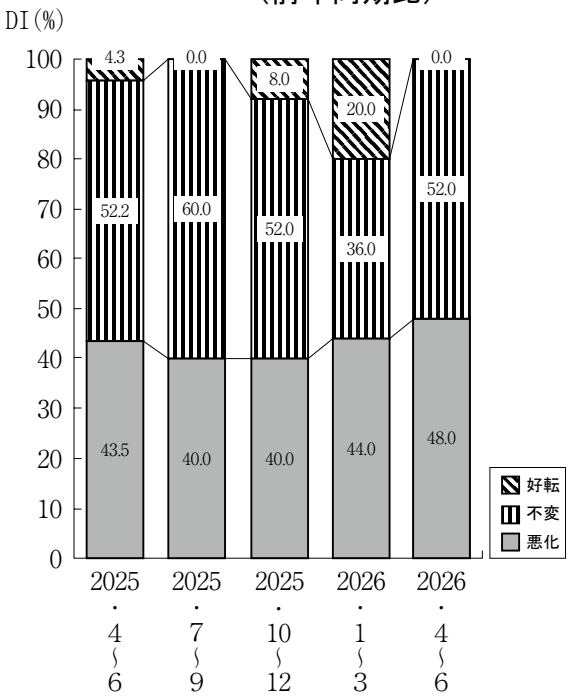


（b）採　　算

「好転」と回答した企業は全体の 0.0%（前期20.0%）で△20.0ポイント減少、「悪化」と回答した企業は全体の48.0%（前期44.0%）で4.0ポイント増加。

その結果、採算ＤＩは△48.0（前期△24.0）となり、△24.0ポイントの悪化となった。

図 2－3　採算の状況
（前年同期比）



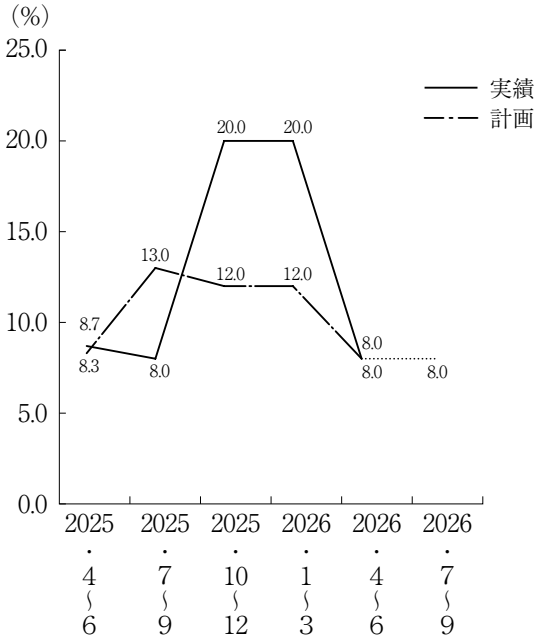
（c）設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の 8.0%（前期 20.0%）で前期と比べ△12.0ポイント減少した。

その設備内容は、車両・運搬具、ＯＡ機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 8.0%で、その設備内容は、車両・運搬具となっている。

図 2－4　設備投資の状況

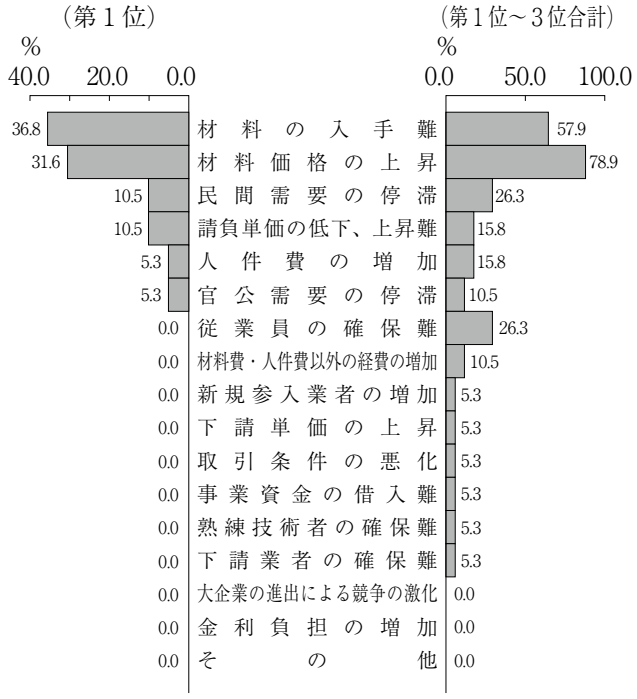


（d）経営上の問題点

重要度第 1 位の問題点は「材料の入手難」が 36.8%、次いで「材料価格の上昇」が 31.6%で続いた。

重要度第 1 位から第 3 位合計では、「材料価格の上昇」が 78.9%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「材料の入手難」が 57.9%、「民間需要の停滞」「従業員の確保難」が同率 26.3%、「請負単価の低下、上昇難」「人件費の増加」が同率 15.8%、「官公需要の停滞」「材料費・人件費以外の経費の増加」が同率 10.5%、「新規参入業者の増加」「下請単価の上昇」「取引条件の悪化」「事業資金の借入難」「熟練技術者の確保難」「下請業者の確保難」が同率 5.3%で続いた。

図 2－5　経営上の問題点



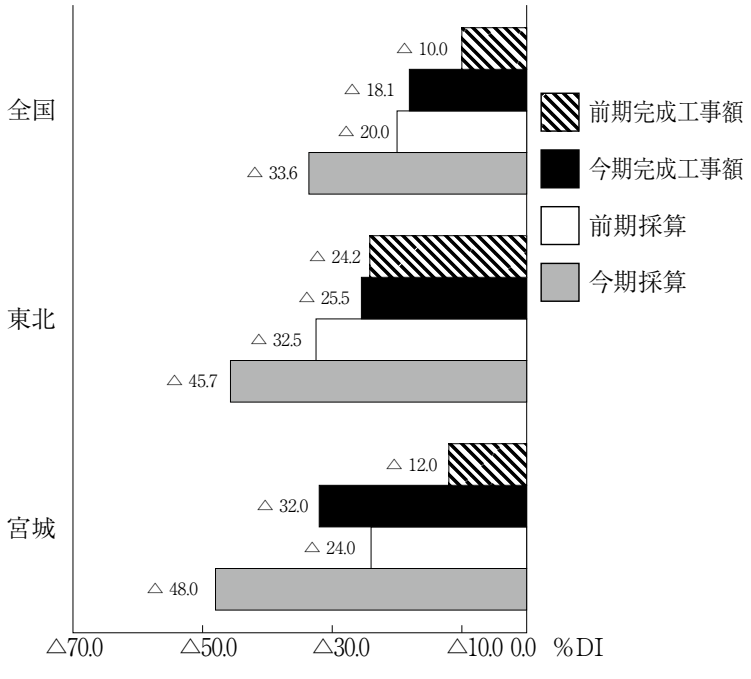
③　全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額ＤＩは全地域（全産業）で悪化となった。その悪化度は宮城、全国、東北の順であった。

採算ＤＩでも全地域（全産業）で悪化となった。その悪化度は宮城、全国、東北の順であった。

本県回答事業所からは、「ナフサ関連資材の入荷が不透明」、「他地域からの新規参入、請負単価の競争激化により受注環境に変化」（内装業）、「材料費の上昇、引合いから受注、代金回収・現金化までが長期になり資金繰り面で苦慮」（電気工事業）、「材料価格高騰、資材入手困難」（設備工事業）などのコメントが寄せられた。

図 2－6　全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



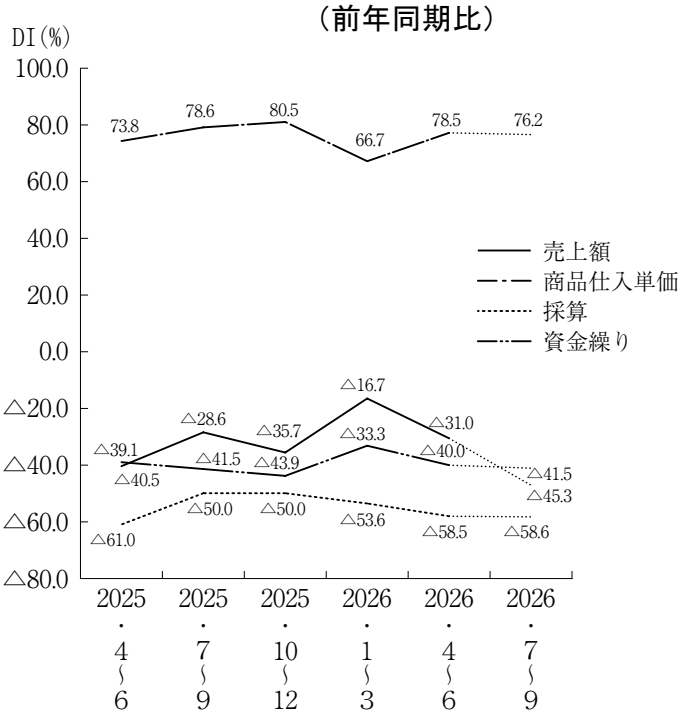
（3）小売業の動向

①　主要景況項目から見たあらまし

売上額ＤＩは今期△31.0（前期△16.7）となり前期比△14.3ポイント悪化、採算ＤＩでは今期△58.5（前期△53.6）で△4.9ポイント悪化、資金繰りＤＩでは今期△40.0（前期△33.3）で△6.7ポイント悪化した。

商品仕入単価ＤＩは今期 78.5（前期 66.7）で 11.8 ポイントの増加となった。

図 3－1　主要景況項目の推移
（前年同期比）



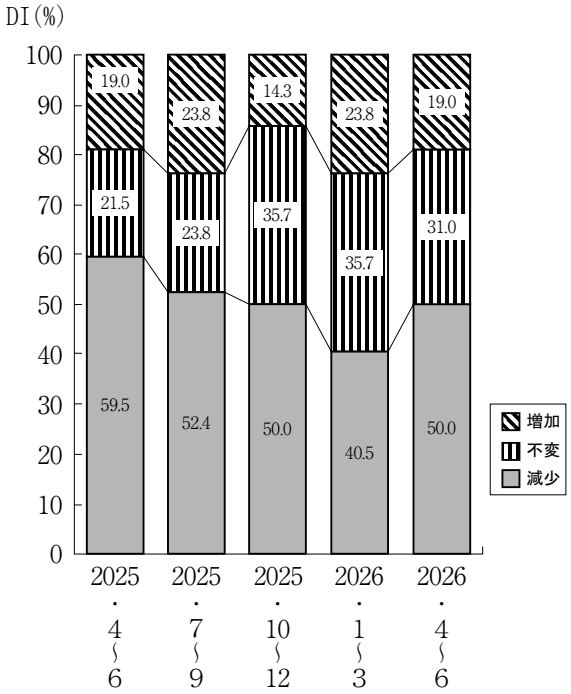
② 主要景況項目別状況

（ａ）売 上 額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の19.0%（前期23.8%）で△4.8ポイント減少、「減少」と回答した企業は、今期は全体の50.0%（前期40.5%）で9.5ポイント増加した。

その結果、売上額ＤＩは今期△31.0（前期△16.7）と前期より△14.3ポイントの悪化となった。

図 3－2　売上額の状況
（前年同期比）

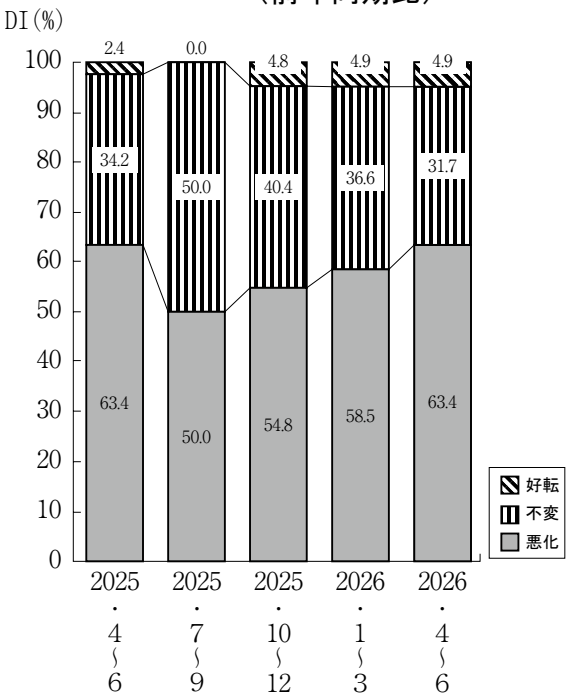


（b）採　　算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の 4.9%（前期 4.9%）で横ばい、「悪化」と回答した企業は、今期は全体の 63.4%（前期58.5%）で4.9ポイント増加した。

その結果、採算ＤＩは今期△58.5（前期△53.6）となり、△4.9ポイントの悪化となった。

図 3−3　採算の状況
（前年同期比）



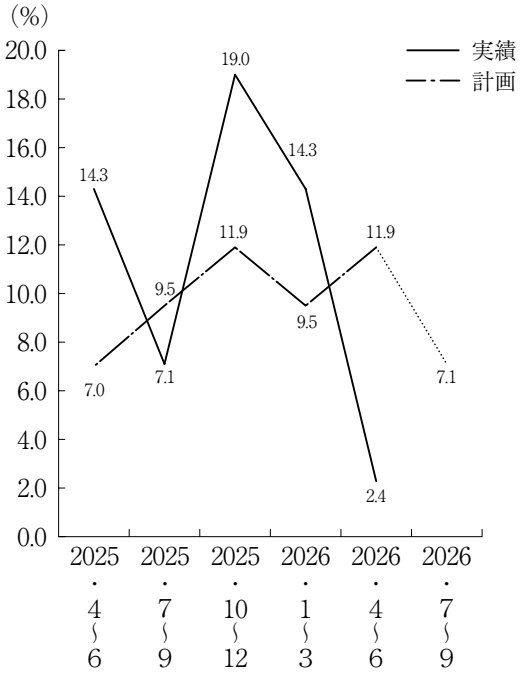
（c）設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の 2.4%（前期 14.3%）で前期と比べ△11.9ポイント減少した。

その設備内容は、付帯施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 7.1%で、その設備内容は、販売設備、車両・運搬具、ＯＡ機器、福利厚生施設となっている。

図 3−4　設備投資の状況

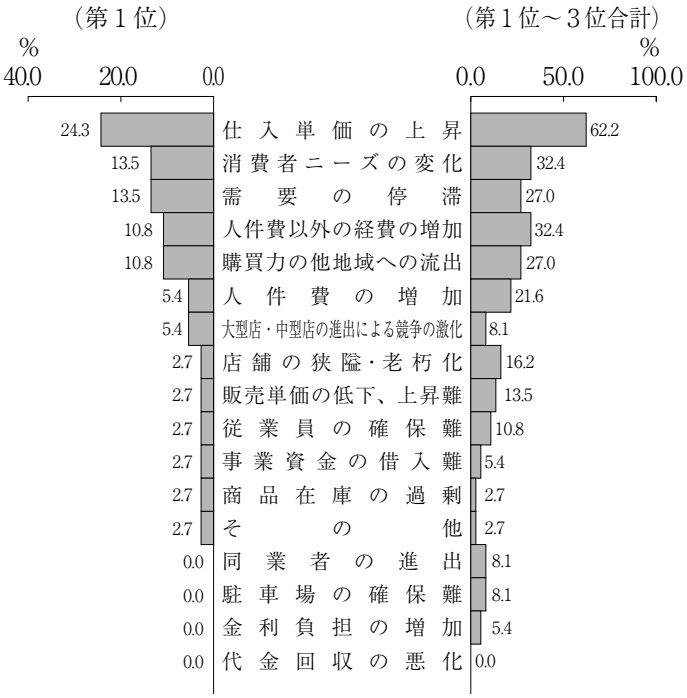


（d）経営上の問題点

重要度第１位は、「仕入単価の上昇」が24.3%、「消費者ニーズの変化」「需要の停滞」が同率13.5%で続いた。

重要度第１位から第３位合計では、「仕入単価の上昇」が62.2%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「消費者ニーズの変化」「人件費以外の経費の増加」が同率 32.4%、「需要の停滞」「購買力の他地域への流出」が同率27.0%、「人件費の増加」が 21.6%、「店舗の狭隘・老朽化」が16.2%、「販売単価の低下、上昇難」が13.5%、「従業員の確保難」が10.8%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」「同業者の進出」「駐車場の確保難」が同率8.1%で続いた。

図３－５　経営上の問題点



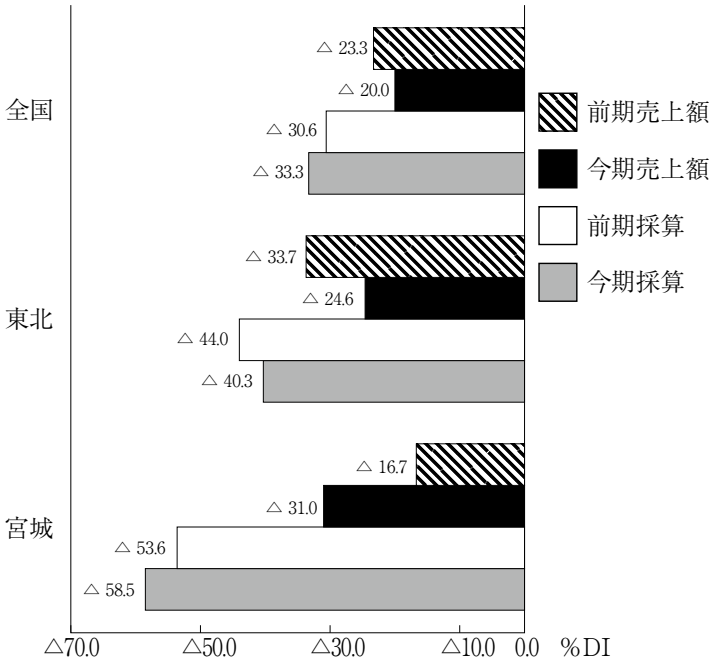
③　全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上ＤＩは、全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

採算ＤＩでは全国、宮城で悪化、東北で改善となった。

本県回答事業所からは、「好調なパン雑貨卸売りで業容拡大」（各種小売業）とする一方、「包装資材等の価格上昇が懸念」（鮮魚販売）、「原材料、梱包資材の相次ぐ値上げに困惑」（洋菓子販売業）、「人口減少、少子高齢化、ライフスタイルの変化等で売上の維持が難しい状況」（書籍販売業）、「中東情勢の影響から、客足の減少と買い控えの動きが見られることが気がかり」（海産物販売業）などのコメントが寄せられた。

図３－６　全国東北宮城売上額・採算比較（前年同期比）



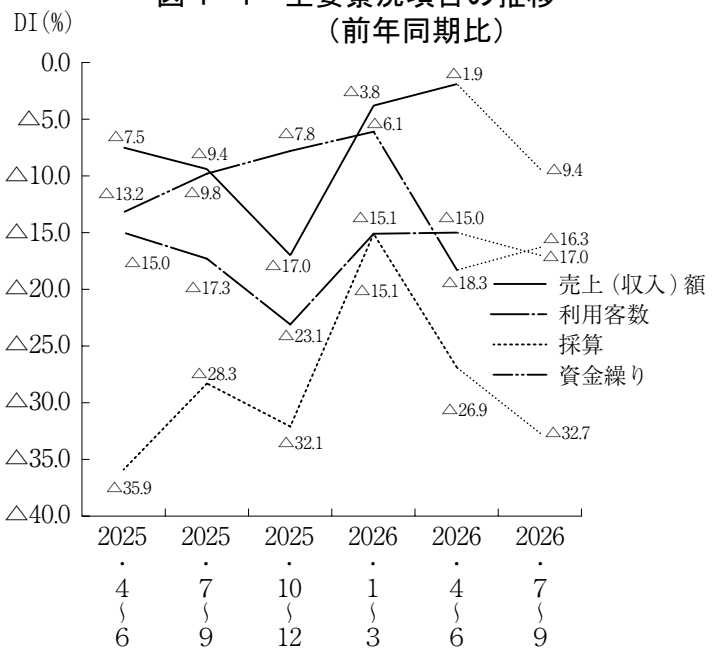
（4）サービス業の動向

①　主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額ＤＩは今期△1.9（前期△3.8）となり前期比 1.9 ポイント改善、採算ＤＩは今期△26.9（前期△15.1）で△11.8ポイント悪化、資金繰りＤＩでは、今期△18.3（前期△6.1）で△12.2ポイント悪化した。

利用客数ＤＩは、今期△15.0（前期△15.1）で 0.1 ポイント改善した。

図 4－1　主要景況項目の推移
（前年同期比）



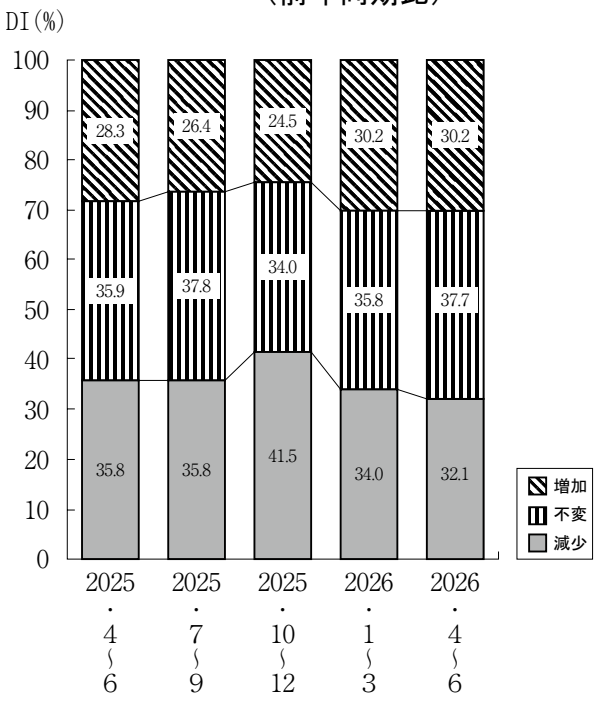
②　主要景況項目別状況

（ａ）売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の 30.2%（前期 30.2%）で横ばい、「減少」と回答した企業は、今期 32.1%（前期 34.0%）で前期より△1.9ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額ＤＩは今期△1.9（前期△3.8）で、前期より 1.9 ポイントの改善となった。

図 4－2　売上（収入）額の状況
（前年同期比）

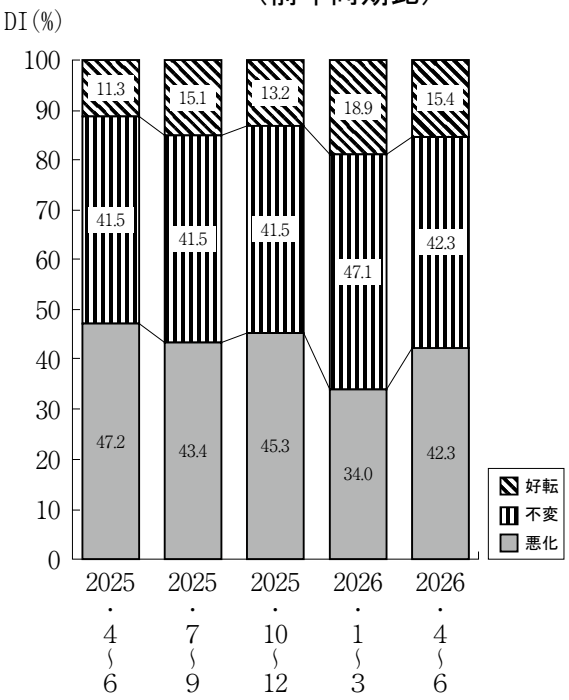


（b）採　　算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の15.4%（前期18.9%）で△3.5ポイント減少、「悪化」と回答した企業は今期42.3%（前期 34.0%）で 8.3 ポイント増加した。

その結果、採算ＤＩは今期△26.9（前期△15.1）で前期より△11.8ポイントの悪化となった。

図 4－3　採算の状況
（前年同期比）



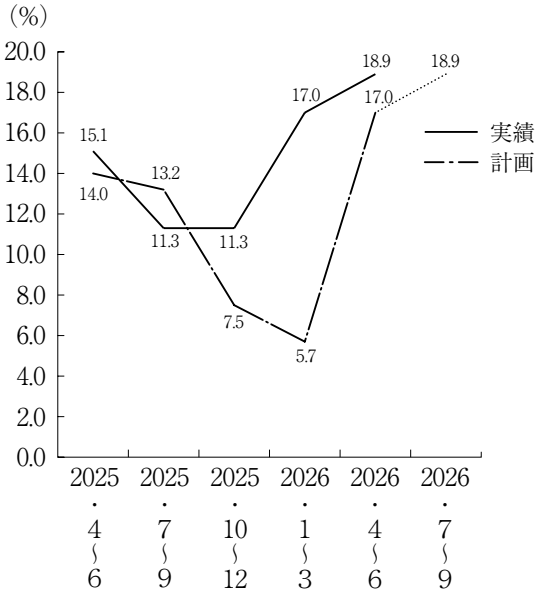
（c）設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の 18.9%（前期 17.0%）で、前期と比べ 1.9 ポイント増加した。

その設備内容は、土地、サービス、車両・運搬具、付帯施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の 18.9%で、その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、ＯＡ機器となっている。

図 4－4　設備投資の状況

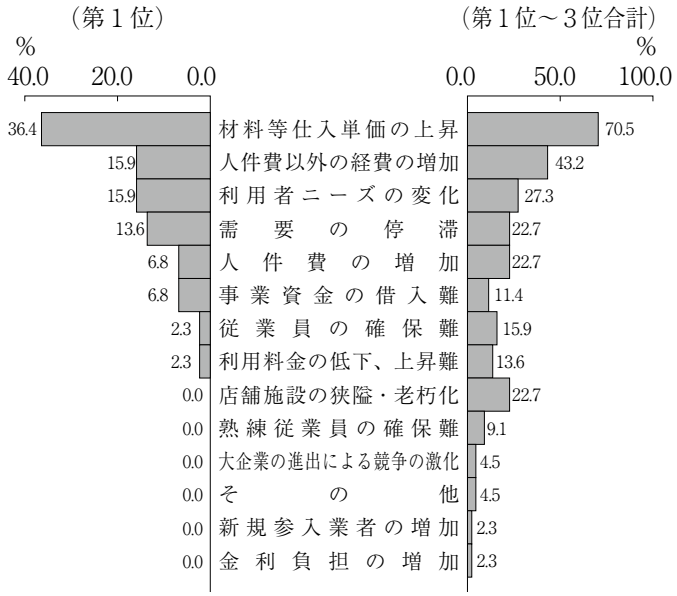


（d）経営上の問題点

重要度第１位は、「材料等仕入単価の上昇」が 36.4%、次いで「人件費以外の経費の増加」「利用者ニーズの変化」が同率15.9%であった。

重要度第 1 位から第 3 位合計では「材料等仕入単価の上昇」が 70.5%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費以外の経費の増加」が 43.2%、「利用者ニーズの変化」が 27.3%、「需要の停滞」「人件費の増加」「店舗施設の狭隘･老朽化」が同率22.7%、「従業員の確保難」が15.9%、「利用料金の低下、上昇難」が13.6%、「事業資金の借入難」が11.4%、「熟練従業員の確保難」が9.1%、「大企業の進出による競争の激化」が4.5%で続いた。

図 4－5　経営上の問題点



③　全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上ＤＩは、全地域（全産業）で改善となった。その改善度は東北、全国、宮城の順であった。

採算ＤＩ比較では、全国、宮城で悪化、東北で改善となった。

本県回答事業所からは、「ナフサ価格高騰による原材料費の上昇、人件費･税負担の増加が収益を圧迫」（洗濯業）、「原材料価格の上昇が続く中、商品への価格転嫁が十分に進まず利益確保が難しい」（飲食業）、「デジタル化による紙媒体の減少やAIの進展により制作ニーズが縮小」（専門サービス業）、「退職予定を背景に人員確保が課題」（理美容業）などのコメントが寄せられた。

図 4－6　全国東北宮城売上（収入）額・採算比較（前年同期比）

